

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和2年(2020年)9月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

通算184号
2020 9 月号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

友達の輪～Relayトーク 第6弾 …	P1～2
胃癌術後みんなで話そう会の逐語録を作成しました …	P2
人吉市でのJMAT活動報告 …	P3
新任挨拶 …	P4
玄関の花壇に紫色の花が満開です …	P4

「友達の輪～Relay トーク 第6弾」

武藤眼科・大久保内科 おおくぼ やすお
大久保 康生



医師会の皆さん、こんにちは。私は熊本市中央区子飼町で開業しています。眼科で開業していた義父と共に新しく内科を併設して武藤眼科・大久保内科医院として再出発し、はや11年の月日が流れました。この間に私で手に負えない多くの患者様を地域医療センターに診ていただいて大変感謝しております。まだ一度も紹介の際に断られた事がなく、一開業医の大きな支えになっています。これからもこの関係が続いていくことを願っております。

さて先日、すどう・きたの医院の北野くんから地域医療センターだよりになんでもいいから文を書いてくれないかと電話がありました。最初は断ったのですが、彼は高校時代からの友人で無下にできず引き受けて書く事になりました。何を書けばいいのか

悩んだんですが、研修医時代における地域医療センターでの夜間当直の思い出をお話しさせていただきます。医師になって半年程たったひよっ子が救急病院で、たった一人で患者様の対応に当たるのです。私達、新人局医の間では肝試しと噂されていました。先輩には何かあったらいつでも連絡をしていいから、地域医療センターの先生も別の部屋で当直しているから大丈夫、大丈夫と言われ送り出されます。すごく恐ろしかったです。当直室に外来看護師の方からの患者来院の電話がかかってくる。患者さんの症状をおおまかに聞いて、急いで救急マニュアルの本を見て治療法を暗記し外来へ診察に行きます。当時診療に自信が全くありませんでした。見透かされたように、こんな若造医師で大丈夫かという患者様・ご家族・看護師の目が突き刺さります。今では考えられない事です。医療事故を起こさなくて本当に良かったです。ただ必死になって自分でやらなければならなかったので実力はついたような気がします。私にとっての地域医療センターは医師としての救急医療の原点かもしれませぬ。でも今の若い研修医の方にはとてもオススメできません。

この原稿を書いている時、世間はコロナウイルス感染症の第二派来襲で大騒ぎの最中です。外来患者

様、病院関係者に罹患者が出ないことを毎日祈って日々を過ごしています。感染症ですので3密対策・手洗い等の徹底やワクチン・治療薬の開発等によりいつかは終わりを告げるでしょうが、来年の秋頃まではコロナが収束する事は無いと考えています。そこで気休めしかなりませんが東京からアマビエが描かれた金太郎飴を取り寄せ職員に配りました。今のところ職員には効果があるようです。With コロナの生活がこれからも継続していく事になりますが、感染症が早く収まることを切に願ってやみません。

しかし今回は医師になって初めての経験です。熊本地震とは大違いで、病院は無事なのに患者様が受診を控えられむしろ暇な状態です。医療経営の打撃も大変心配になるところですが、患者様の状態が把握できなくなり病状が悪化しないか気を揉んでいました。ところが逆に受診された沢山の患者様から

診察室を退出される際『先生もお体を大切にしてください。先生がいなくなると困ります。』と有難い言葉をいただき心温まる日々です。私たち医療関係者は患者様に生かされているのかもしれない。もう一度当院を受診して治療したいなと患者様に思ってもらえるように、これからも誠実に医師として医療活動をしていきたいと思っています。

次回の『友達の輪』は熊本大学代謝内科で一期下になる水前寺循環器内科の山口英治先生にお願いしました。私達親しい仲間内では英ちゃんと呼んでいます。水俣市立病院勤務・熊本大学病院勤務時代に食事に行ったり、パチンコ・麻雀などの色々な遊びを一緒にした仲間です。きっと楽しい便りを起草してくれると思っています。

次回、英ちゃん先生よろしく申し上げます。

胃癌術後みんなで話そう会の逐語録を作成しました

がん専門相談員 さとやま ひろこ
里山 弘子



医師会の先生方には平素より大変お世話になっております。

この度、胃切除後に様々な症状で悩んでいる患者さんの為に冊子を作成しましたのでご紹介いたします。

本来食べることは私たちにとって大きな楽しみの一つですが、胃を切除した方は、小さくなった胃袋に慣れるまでには早くても数か月の試行錯誤の時期があります。

私が担当しているある患者さんは、一回の食事に40分!! 顎が疲れるほど噛んで食べてもじわじわと腹痛に襲われ、その後3~4回の下痢。やっと落ち着く頃には次の食事がやってくる・・・の繰り返しで、本来楽しみだった食事がとてもストレスに感じられておられました。「胃の手術をした人はみんなこんなふうになるの?自分だけ?体験した人の話を聞いてみたい!」この言葉をきっかけに、当院のがんサロン「よかところネット」では“胃癌術後みんな

で話そう会”を企画し、毎年開催するようになりました。この冊子はそこでの体験談を逐語録としてまとめたもので、医師や薬剤師・管理栄養士からのアドバイスも載せています。もし必要とされている方がおられましたら是非ご活用ください。

下記にご連絡いただければ必要部数をお送りさせていただきます。

熊本地域医療センター がん相談支援センター
TEL (代) 096-363-3311



人吉市でのJMAT活動報告

循環器内科 平井 信孝
ひらい のぶたか



今年には異常な長雨と豪雨で九州内にとどまらず全国至る所で災害が発生しました。とくに人吉・球磨・芦北地域では7月3日から4日までの48時間で球磨川上流に400mmを大幅に超える大量の雨が降った

ために、球磨川やその支流があちこちで氾濫し、甚大な被害が生じて多数の死傷者を出す結果となってしまったことはご承知のとおりです。新型コロナウイルス蔓延下ではじめての大規模災害となったのです。

このため我々は熊本県医師会より要請を受け、JMAT (Japan Medical association Team, 日本医師会災害医療チーム) として7月10日に日帰りではありますが人吉市へ行って参りました。医師1名(平井)、看護師2名(春田、田上)、事務職員2名(恒松、中村)の5人チームでした。

当日は病院の救急車とミニバンに分乗して朝7時に病院を出発。九州自動車道を使って人吉市に向かったのですが、災害救助の車で人吉インターチェンジが渋滞しており、予定時間を大幅に遅れて集合場所である人吉保健所に到着しました。道中、球磨川に近づくにつれ道路が泥で汚れ、家屋の1~2階の窓ガラスが割れていたり、家財道具が散乱し災害ゴミがうず高く積まれていたり、見慣れた街の光景が一変した様子を目の当たりにして被害の大きさをひしと感じ、緊張が高まりました。

人吉市保健所ではすでに全国から参集したDMATが活動しており、我々JMATはその指揮下に入って人吉市内の避難所を巡回することになりました。幸い、すでに人吉市内の医療機関の半数以上が診療を行っていたこともあって、避難所を巡回したとしても医療的なニーズはさほど高くありませ

んでした。このため避難所の衛生環境のチェック(検温の実施、social distanceの確保、換気、トイレの清掃など)を行いました。また発災以来、不眠不休で働いていた保健師さんらのニーズを把握することも重要な任務の一つでした。時折激しく雨が降る中、5カ所の避難所を巡回。まだ段ボールベッドやプライバシーの確保が不十分な避難所もありましたが、総じてうまく運営されており、大きな問題点は見当たりませんでした。個人的には阪神淡路大震災や東日本大震災にも医療応援をしましたし、熊本地震も経験しましたが、医療支援をはじめとする災害援助体制にはこれらの災害の経験が大変よく生かされているという印象を受けました。

後日、残念なことに香川県から応援に来ていた保健師さんが新型コロナウイルスに感染していたことがわかりました。我々と活動時期が重なるのですが、その保健師さんがいた避難所は担当しておらず、接触の機会はありませんでした。しかしながら杉田院長の判断で7月14日・15日に予定されていたJMAT活動は見送られることになり、現地の惨状を思うとやり切れない思いがしました。

ご承知のとおり、被災しているのは人吉地区だけではありません。全国各地の被災地の一日も早い復興を願うばかりです。



左から平井 田上 恒松 中村 春田



新任挨拶



社会福祉士
ふじた くみ
藤田 久美

令和2年5月22日より、社会福祉士として勤務させていただいております藤田と申します。急性期病院での勤務もありますが、これまで、主として、精神科の領域での相談業務に従事して参りました。治療が必要な状況になるということは、その疾患名や、理由、症状に違いはあれど、生活の上での変化が起こるという意味においては共通する部分があるのではないかと考えております。

まだまだ不慣れな部分もあり、ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、個々の患者さんが望む生活の実現に向けた支援ができればと考えております。

私たちは、現在、かつては当たり前であった普通の生活ができない状況にあります。

行きたいところに行けない。逢いたいと思う人に自由に逢えない。法律で強く縛られてはいないにしても、それは異常事態です。このような状況の中で医療に携わる者として、何ができるのか。その問いをつづけながら、世界の誰もが経験したことの無いこの状況を、みなさんとともに乗り越えていきたいと考えています。

どうぞよろしく願いいたします。

玄関の花壇に紫色の花が満開です

地域医療連携室 井上 洋志



当院の玄関前に「柳葉レイラ草」という花が鮮やかに咲いています。この花は、朝早くに咲き、午後には花を落とすそうです。例年4～10月頃までが開花時期とされています。来院される際には、病院の花壇にも目を向けてみてください。柳葉レイラ草だけではなく、きれいな花がたくさん咲いていますよ。

一部ではありますが、フォトサークルの伊藤さんに花壇の写真を撮ってもらいました。きれいに撮れていますので、ご覧ください。



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／9月28日(月) 19:00～20:00

会場／※熊本市医師会館2階 研修室

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として会場を熊本市医師会館2階 研修室に変更しております。

「見落とさない！

日常診療でよく遭遇する皮膚疾患」

CC26：発疹

皮膚科 市原 麻子先生

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00～17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y 「友達の輪 Relay トーク第6弾」は、大久保先生に夏の季語「肝試し」も入れて書いていただきました。来月号も Relay トーク第7弾を掲載し隔月掲載に戻ります。表紙の右上にホームページのQRコードを復活しました。過去の本誌もご覧いただけます。「令和2年7月豪雨」に加え連日の猛暑日で、新型コロナウイルス感染症で忘れかけていた、地球温暖化とエネルギー問題という課題を思い出しています。

K 残暑厳しい折柄、皆様いかがお過ごしでしょうか？熱中症対策、コロナ対策と、知恵を絞りました…結果、今年の我が家の夏休み、電気代がうなぎ上りでした。

H 数年前、学生だった頃はこの猛暑の中でもバリバリ部活をしていたはずなのに、今となっては室内にいただけでパテてしまいます。いつの間にか体重が増え、職場の先輩方からは「太ったろ？(笑)」と心に突き刺さる言葉をたくさんいただきました。痩せます。。。